

## 1. 略歴

2001年3月	東京大学教養学部生命・認知科学科 卒業
2001年4月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程 入学
2003年3月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程 修了
2003年4月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程 進学
2006年3月	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程 修了 博士（学術）取得
2006年4月	東京大学大学院総合文化研究科 日本学術振興会特別研究員（PD）
2007年4月	東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門 日本学術振興会特別研究員（PD）
2006年9月	イリノイ大学アーバナ-シャンペーン校ベックマン研究所 客員研究員
2009年4月	名古屋大学大学院環境学研究科 講師
2012年10月	名古屋大学大学院環境学研究科 准教授
2017年4月	名古屋大学大学院情報学研究科 准教授
2017年9月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

実験心理学、認知心理学

### b 研究課題

社会的認知とエイジングを主な研究課題としている。社会的認知とは人間の社会行動を支える心の働きの総称であり、他者の感情・思考や性格の推測、自己の行為のコストベネフィット評価や道徳性の判断、相手を信頼して協力するか否かの意思決定など、多様な心理過程が含まれる。一方、エイジングはagingのカタカナ表記で、「年をとること」である。「近頃、年のせいで…」というぼやきもあれば、「年の功」という言葉もあるように、心の働きには年齢とともに低下する側面も向上する側面もある。中でも社会的認知のエイジングについて検討することで、世代間の交流・理解を促進するヒントが得られないかと考えて研究を進めている。

### c 概要と自己評価

人間が他者の信頼性について判断をする際には、その人物の顔、評判、実際の交流経験など、種々の情報源を活用する。そうした様々な情報源にもとづく他者の信頼性判断を検討する一連の実験を遂行し、人間の信頼性判断がどのような特徴をもち、その背後にどのようなメカニズムがあるかを明らかにすることを目指して研究を進めている。

最近、信頼性判断に影響する要因として、新たに“信念”に着目した研究をおこなっている。具体的には、信頼性に限らず顔からあらゆる特性を判断できるという全般的な信念（人相学的信念）が存在すると考え、この信念と顔にもとづく信頼性判断との関連を検討している。研究の結果、人相学的信念の存在が実証され、また、この信念が強い人ほど顔から極端な信頼性判断をおこなうことが明らかになった。本成果は既に国内外の学会で発表され、国際誌に論文も掲載されており、研究は順調に進んでいる。

### d 主要業績

#### (1) 論文

鈴木敦命、「感情認知の心理・神経基盤：現在の理論および臨床的示唆」、『高次脳機能研究』、36(2)、271-275 頁、2016

Suzuki, A., Ito, Y., Kiyama, S., Kunimi, M., Ohira, H., Kawaguchi, J., Tanabe, H.C., & Nakai, T., 「Involvement of the ventrolateral prefrontal cortex in learning others' bad reputations and indelible distrust」、『Frontiers in Human Neuroscience』、10、Article 28、2016.2

Suzuki, A., Tsukamoto, S., & Takahashi, Y., 「Faces tell everything in a just and biologically determined world」、『Social Psychological and Personality Science』、OnlineFirst、2017.10

#### (2) 学会発表

国内、鈴木敦命、「集団は個人の魅力を高めるか：顔集合の階層的符号化（シンポジウム SS-012 「アンサンブル知覚研究の最前線）」」、日本心理学会第81回大会、2017.9

国内、鈴木敦命、塚本早織、高橋雄介、「人相学的信念の背後にある素朴理論」、日本心理学会第81回大会、2017.9

- 国内、服部友里, 渡邊伸行, 鈴木敦命、「評定者と刺激の性別がチアリーダー効果に与える影響」、日本心理学会第81回大会、2017.9
- 国際、Hattori, Y., Watanabe, N., & Suzuki, A.、「Hierarchical encoding of faces may be accentuated for opposite-sex peers」、58th Annual Meeting of the Psychonomic Society、2017.11
- 国際、Suzuki, A., Ueno, M., Ishikawa, K., Kobayashi, A., Okubo, M., & Nakai, T.、「Brain activity in response to feedback on face-based trait inferences in older and younger adults」、The 23rd Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping、2017.6
- 国際、Suzuki, A., Tsukamoto, S., & Takahashi, Y.、「Faces tell everything because people are biologically determined and live in a just world」、The 18th Annual Meeting of the Society for Personality and Social Psychology、2017.1
- 国際、Hattori, Y., Matsuo, A., & Suzuki, A.、「Males perceive females as more attractive when in a group rather than alone」、57th Annual Meeting of the Psychonomic Society、2016.5
- 国際、Suzuki, A., Tsukamoto, S., & Takahashi, Y.、「Comparison of physiognomic beliefs in Japan and the United States」、The 23rd Congress of the International Association for Cross-Cultural Psychology、2016.8
- 国際、Kiyama, S., Suzuki, A., Chen, S.-H. A., & Nakai, T.、「Training effect of speech articulation on older speakers as revealed by fMRI」、The 22nd Annual Meeting of Organization for Human Brain Mapping、2016.6
- 国際、Suzuki, A.、「Persistent face bias in older adults judging trustworthiness」、International Meeting of the Psychonomic Society 2016、2016.5
- 国際、Kiyama, S., Suzuki, A., Chen, S.-H. A., & Nakai, T.、「Plastic-adaptive changes after articulatory training in the elderly: An fMRI study」、The 24th Annual Meeting and Exhibition of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine、2016.5

### 3. 主な社会活動

#### (1) 学会

- 国内、日本基礎心理学会、理事、2017.12～、『基礎心理学研究』編集委員、2015.3～、優秀論文選考委員、2017.4～2017.7
- 国内、日本感情心理学会、理事、2016.6～、『感情心理学研究』副編集委員長、2016.6～